



おとがわ



ふお～ゆ～

校長室だより

第 23 号

R3.9.22

文責 中西 勉



### 「わかる」と「できる」

今朝、西門の近くでの出来事です。私が登校してきた子供たちに挨拶をしていたとき、一人の低学年の子が、私と目が合った瞬間にある行動を起こしました。その行動とは、マスクがずれていたのを、自分で気付いてすぐに鼻まで覆うように直したことです。きっとこの子は、私が9月11日(土)の朝、全校児童に向けて新型コロナの感染予防について話した「マスクから鼻が出ていると、ウイルスから自分を守るためのマスクの効き目はほぼなくなってしまふ」ということをしっかりと覚えていて、すぐに行動に移したのでしょう。私はその場で「自分で気付いてきちんとマスクが直せたね。えらいね」と言葉をかけました。

この子のように、「わかった」ことを「できた」にまで高めることはとても大切なことです。極端なことを言えば、「わかって」いても、それをやらなければ、「わかっていない」のほとんど同じになってしまいます。私は、「わかる」と「できる」には、大きな差があると考えています。勉強でも運動でも、「わかった」で終わるのではなく、「できた」と自分で納得がいくまでやれるようにしていきたいですね。

1学期にはかなりよくなった子供たちの挨拶ですが、2学期になり、自分から挨拶できる子が少なくなってしまうと感じています。子供たちは、挨拶をすることの大切さは「わかって」いると思います。1学期同様、自分から挨拶が「できる」ように、ご家庭でもお子さんを応援してあげてください。



### シリーズ「東京オリンピック」⑤ ～文武両道を目指して～

シリーズ第5回は、競泳女子200、400メートル個人メドレーで2個の金メダルを獲得という競泳女子史上初の快挙を成し遂げた大橋悠依選手についてです。大橋選手は、大学時代の4年間、毎朝午前5時半に起床し、午前6時からの朝練に出て、その後は3、4限目まで授業を受け、夕方の練習に向かうという過酷な日々を過ごしました。スポーツの世界は、学業よりも競技を優先する傾向にありますが、大橋選手は、文武両道の学生生活を貫いたことが、今の自分の礎を築いたと考えているそうです。大橋選手は、このように自分に厳しい姿勢で競技に向き合ってきたからこそ、多くの苦難を乗り越えることができ、今回の偉業を達成することができたのでしょうね。

私は、日頃から本校の職員に「〇〇だけ」の先生にならず、「〇〇も」「◇◇も」の二刀流を目指すように話しています。そうすることで、自分に対する甘えがなくなり、自分に厳しい姿勢と態度が身に付いていくと考えているからです。男川っ子にも、「文武両道を目指し、自分で自分を鍛えながら、自分の可能性をどんどん広げていってほしい」と言いたいです。

